

社会福祉学、英語教育学、法律学、社会学、教育学、統計学、体育学、政治学、国際関係学、コミュニケーション関係学、経営学、経済学、会計学、心理学、被服学、物理学、化学、機械工学、建築学、経営工学、数学、電気通信工学、土木工学、生物学、美術・デザイン学

分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 参加申込書

開催日時：令和4年12月17日(土) 13:00～17:00 オンライン(Zoom)開催

※ 必要事項を記入の上、メール (info@juce.jp) 添付、またはFAX(03-3261-5473)にてお申し込みください。

- ・記入いただいた個人情報、本協会の事務連絡及び委員会活動の案内に限定して利用させていただきます。
- ・データベース管理作業を外部委託する場合は、目的外の利用や情報の流出がないよう、十分留意します。

[参加者記入欄]

※ できるだけ詳しくご記入下さい。後日、テレビ会議室専用のURLのご案内や今後の活動の案内をさせていただきます。

フリガナ ()
氏名： _____ 大学名： _____

所属・役職： _____ 担当学問分野： _____

E-Mail： _____

アンケート 意見交流の運営に役立てるため、以下の(1)から(7)についてできるだけ記入ご協力をお願いします。

(1) 学修者の学びの個別最適化に向けた先生の対応について、特に配慮している取組みを**3つ**選び、□に✓(チェック)を付けて下さい。

- シラバスや授業で「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にしている。
- ポートフォリオ等で達成度を把握し、個別に学修を指導・助言している。
- 学生一人ひとりの学修状況を把握し、学修行動の分析を通じて指導・助言している。
- 不安・悩みを抱える学修者に相談・助言している。
- 学修者同士による教え合い・学び合いを実施している。
- 主体性と学修意欲の向上をはかるため、社会課題等をテーマに授業を設計している。
- 授業後の感想・意見を全員で共有し、振り返りを行っている。
- 学修者(海外留学者、障害者等)の環境に応じた授業を実施している。
- TA や SA によるキメ細かい学修支援を実施している。
- 卒業後の社会人から授業体験を紹介し、担当する授業の重要性を気づかせている。
- その他(40字以内で記述下さい)

()

- 特に学修者の立場に配慮した取組みはしていない。

(2) 先生が担当授業で遠隔授業を実施している状況について、以下の項目ごとに**1つ**選び、□に✓(チェック)を付けて下さい。遠隔授業を実施していない場合は、記入不要です。

<主な授業科目>

- 講義
- 演習 (ゼミ、PBL 等)
- 実験・実習
- 実技

<主な遠隔授業の実施形態>

*ハイブリッド型を選択された場合、()内のいずれか1つを○で囲って下さい。

- オンデマンド型
- リアルタイム型
- ハイブリッド型(ブレンド型 ・ ハイフレックス型 ・ 分散型)

*さらにハイブリッド型でブレンド型と回答された先生にお尋ねします。

下の実施方法の**いずれか**を選び、□に✓(チェック)を付け、**実施方法、効果と課題の概要**についても簡潔に記述ください。

<ブレンド型の実施方法>

- 反転授業 (例えば、事前学修でオンライン学習教材を学び、対面授業で討論や実践等のアクティブラーニング)
- 組み合わせ授業(授業の目的・教育効果等に合わせ、授業ごとに対面と遠隔を組み合わせた授業)
(例えば、15回の授業の内、初回や対面が望ましい回等は対面で行い、それ以外は遠隔・オンラインで行う)

【ブレンド型の実施方法、効果と課題の概要】 (記述)

<遠隔授業の実施で特に配慮していること>

*主に配慮している項目を**2つ以内**選び、□に✓(チェック)を付けて下さい。

- 学生同士の意見交換の機会
- 授業後の設問解答・添削指導・質疑応答のフォロー
- 教員と学生の双方向コミュニケーション
- 配信教材の作成と課題の準備
- 学修成果の把握と個別指導
- 学生の通話環境の維持
- その他 ()

<遠隔授業の主な学修評価の方法>

***1つ**選び、□に✓(チェック)を付けて下さい。

- オンラインによる筆記試験
- 対面による筆記試験
- 理解度確認の小テストや課題提出
- ルーブリックの活用
- 議論や口頭発表
- 複数の評価法の組み合わせ
- その他 ()

＜遠隔授業試験の不正行為防止策＞ * 1つ選び、□に✓(チェック)を付けて下さい。

- 防止策をとっていない
- 防止策をとっている
(防止策の方法:)

＜遠隔授業に対する学生側の主な課題＞ * 1つ選び、□に✓(チェック)を付けて下さい。

- レポート等の課題が多い
- 身体的な疲れをより感じる
- 友達と一緒に学べず、寂しい
- 質問等、相互のやりとりの機会がない・少ない
- その他 ()

(3) 質の高い学修を目指す「反転授業」のニーズ又は導入について、どのようにお考えですか。

1つ選び、□に✓(チェック)を付けて下さい。

- 基礎知識の理解度向上、知識の定着を図る方法として、顕著な効果が期待できる。
- 予習で獲得した知識を活用し、問題発見・課題解決力の訓練ができる。
- 獲得した知識でアクティブラーニングを行い、表現力、コミュニケーション力を育成できる。
- その他 ()
- 反転授業のニーズは認識しているが、授業設計、授業運営に自信がないので導入しない。
- 予習動画の作成にスキルがなく、技術的・時間的な負担が重いので導入しない。
- 授業科目の到達目標に適さないので、導入は考えていない。

(4) 「問題発見・課題設定解決型教育(PBL)」のニーズ又は導入について、どのようにお考えですか。2つ以内選び、

□に✓(チェック)を付けて下さい。

- 知識の使い方を体験させ、主体的な学びを訓練するのに必要と思う。
- 問題解決のアプローチの仕方と実践力を身につけるために必要と思う。
- 多分野で協働し、思考力、想像力、価値創造力等を身につけるのに必要と思う。
- その他 ()
- PBLのニーズは認識しているが、授業運営の支援体制等がないので導入できない。
- 学修成果の向上が学生一人ひとりに反映できるのか疑問なので、導入しない。
- 知識の定着ができていないので、導入は考えていない。
- 授業科目の到達目標に適さないので、PBLの導入は考えていない。

(5) 上記(4)で「必要と思う」に回答された先生にお尋ねします。「対面と遠隔を組み合わせたPBL授業(反転授業除く)」の実現に向けた課題について、特に重要と考えるものを3つ以内選び、□に✓(チェック)を付けて下さい。

- 対面と遠隔を組み合わせた組織的な教育プログラムの推進
- 教育DXによる質の高い学修を目指す学内執行部のリーダーシップ
- 学修支援システム(LMS)等、ICTによる学びのプラットフォームの整備・充実
- 「教える」から「学びを支援する」に転換する教員の意識啓発の強化
- 対面又は遠隔によるTA・SAの学修支援体制の整備・強化
- 過度の学修負担を軽減するため、授業科目間の統合・調整の推進
- PBLの授業設計・授業方法、ICT活用スキルの支援体制の整備・強化
- 他大学・企業・自治体等との連携協力体制の構築・整備
- 学生の通信環境を維持するための経費等支援、通信トラブル対応の整備
- その他 ()

(6) ハイブリッド授業(ブレンド型、ハイフレックス型)に求められる学修プラットフォーム機能の強化対策について、特に重要と考えるものを4つ以内選び、□に✓(チェック)を付けて下さい。

- ハイブリッド授業実施情報のアーカイブ化・共有化
- オンデマンド型・リアルタイム型・ハイブリッド型授業の自動回答チャットボット化
- LMSのモバイル対応
- 教員と学生、学生間、有識者等との意見交換・発表・評価のモバイル対応
- グループ学修における発言記録のアーカイブ化、自己学修をホワイトボードでモニタリング化
- 動画教材保存の無制限設定
- テロップによる講義の自動字幕化、読み上げによる音声出力
- 学修達成度情報のアーカイブ化とAI分析
- 個人情報の漏洩など情報セキュリティの防御システムの強化
- その他 ()

(7) FDによる質保証のコンセンサスを促進するための課題について、どのようにお考えですか。

1つ選び、□に✓(チェック)を付けて下さい。

- 学部・学科としてディプロマポリシーと授業との関連付けのモニタリング化
- ティーチングポートフォリオ等で授業成果(授業と学修改善の関係性)の振り返りを努力義務化し、学内で共有する。
- 文部科学省「全国学生調査」の結果から、学生目線による教育と学びの実態を把握・共有し、全教員に改善策を求める。
- 学内の教員・職員・学生、第三者が参加するFD活動に年次計画で全教員が参加する仕組みを作る。
- その他 ()

アンケート調査にご協力をいただきありがとうございました。